

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立 高丘小学校 学級数 14

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標 ○思いやりの心を持ち なかよく助け合う子

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

1 取組のきっかけ

本校では、重点教育目標の具現化を目指し、知・徳・体のバランスのとれた教育課程を展開している。朝読書や読書ボランティアによる読み聞かせ、歩数計を取り入れた体力づくり、函館短期大学と連携し食育交流など、学力の下支えとなる取組を継続している。また、日課表の工夫により、水曜日の昼休みの時間を十分確保し、のびのびと遊んだり委員会活動に利用したりしている。昨年度実施した学力諸検査の結果を受け、学力向上が急務であることが明らかになった。

2 取組の位置付け

- ・教務部を中心とし、生徒指導部・保体部・文化部と連携した、教育課程全体の改善充実
- ・学力向上と校内研究（研究主題「生き生きと学び、思いを豊かに表現できる子どもの育成～国語科を中心とした言語活動の工夫を通して～」）との関連した取組

3 取組の方法

- ・校内研究と連携した学力向上のための取組
 - …チャレンジテストの活用、各種学力調査、Q-U等による児童の実態把握を生かし、全員の授業公開により、教師の授業力の向上を図る。
- ・学習のルール定着と学び合う集団づくり（学習の基盤の構築）
 - …「授業を支える5つの確認」の共通理解と共通実践を行う。
- ・家庭学習ガイドラインの作成と家庭との連携
 - …授業と家庭学習との関連を図り、学ぶ意欲を育てるような家庭学習をすすめる。規則的な生活習慣や学習習慣をつけさせるために、保護者へはたらきかける。
- ・戸倉中学校との連携
 - …小・中学校の家庭学習のガイドラインの共有（小6から中1への橋渡し）
 - 地域公開参観日の相互公開、外国語活動や総合的な学習の時間のねらいの共有

取組の成果と課題等

○ 取組の成果

- ・校内研究と連携した学力向上のための取組

(成果) →全員の授業公開により、教師の授業力の向上を図ることができた。

児童の実態把握の方法についての課題が明らかになった。

- ・学習のルール定着と学び合う集団づくり(学習の基盤の構築)

(成果) →「授業を支える5つの確認」について共通理解を行った。「落ち着いた行動」を目指し、子どもの姿に変容が見られる。

- ・家庭学習ガイドラインの作成と家庭との連携

(成果) →教務部が中心となり、宿題と家庭学習についての学級交流を行い、学校全体で共通理解を図った。また、規則的な生活習慣や学習習慣をつけさせるために、家庭学習ガイドラインを配布し、保護者へはたらきかけた。授業との関連や学ぶ意欲を育てるような家庭学習については、課題が残った。

- ・戸倉中学校との連携

(成果) →地域公開参観日の相互公開を行い、教員同士の相互参観が実現できた。現在、来年度の地域公開参観日の同時公開実現について模索中である。また、教務・研究部担当者の交流から、小・中学校の家庭学習のガイドラインの共有(小6から中1への橋渡し)、特別活動や外国語活動、総合的な学習の時間等の交流についても話題に上がっている。近隣諸学校との連携をこれまで以上に深め、地域全体で子どもを育てていく取組を行いたい。

○ 教育課程検証の方法

- ・学校評価については、学校教育目標具現化を目的として、年度当初から学校評価委員会を発足し、目的や方針を共有して組織的に取り組むことができた。そして、保護者・児童・教職員の評価項目を精査し、集計結果を点数化したり、グラフで表したりしながら組織的に分析して提案し、職員会議で実のある意見交流をすることができた。今後、保護者・地域に情報を開示し、「生きる力」の理念の共有を目指し、学校・家庭・地域が一体となって、地域全体で子どもを育てていく取組を行いたい。